

## なぜ、イスラエル？

詩篇124篇を読みましょう。

「もしも【主】が私たちの味方でなかったなら。」さあ、イスラエルは言え。

「もしも【主】が私たちの味方でなかったなら、人々が私たちに逆らって立ち上がったとき、

そのとき、彼らは私たちを生きたまのみこんだであろう。彼らの怒りが私たちに向かって燃え上がったとき、

そのとき、大水は私たちを押し流し、流れは私たちを越えて行ったであろう。

そのとき、荒れ狂う水は私たちを越えて行ったであろう。」

ほむべきかな。【主】。主は私たちを彼らの歯のえじきにされなかった。

私たちは仕掛けられたわなから鳥のように助け出された。わなは破られ、私たちは助け出された。

私たちの助けは、天地を造られた【主】の御名にある。

アーメン。

さて、混乱している人もいますので、イスラエルについてお話ししたいと思います。まず、イスラエルとは、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫の民族名です。のちに、彼らはユダヤ人と呼ばれます。ですから、実際、ユダヤ人とイスラエル人は、今日ほぼ同義語です。

イスラエル、あるいはイスラエル人という名は、旧約聖書に2500回以上出てきます。もし、イングランドやスコットランド、ウェールズ、アイルランドなどの名前が何回も聖書に出ていたなら、私たちがイングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドについて何かしら知っていない限り、聖書を十分に理解できないというのは、確かなことでしょう。同じことがイスラエルにも当てはまります。あなたがイスラエルについて何かしら知っていない限り、あなたは聖書を十分に理解することができません。あなたがイスラエルのことで混乱するなら、聖書について混乱するのです。

新約聖書では、イスラエルという言葉は 79 回出てきます。私のリストでは77回なのですが、ある人がコンピュータでスキャンしてみると、私が見逃していた2つを見つけました。しかし、それが結論を変えることにはなりませんし、イスラエルは決して教会を表わしているものではありません。もう一度言います。イスラエルという名は、新約聖書に79回出てきますが、教会の描写としてのものは、一つもないということです。

ユダヤ人というのは、旧約聖書に84回、新約聖書では192回出てきます。一方、クリスチャンという言葉は、新約聖書にたった3回しか出てきません。

私は、イスラエル人とは独特な民族であることを強調したいと思います。イスラエル人のような民族は他にはありません。私はユダヤ教徒ではないことを言っておきましょう。まず、第一歴代誌 17:21 でダビデによって言われているイスラエルの独特さを紹介したいと思います。ダビデは主に祈ってこう言っています。

「また、地上のどの国民があなたの民イスラエルの方でしょう。神ご自身が来られて、この民を贖い、これをご

自身の民となさいました。あなたがエジプトから贖い出してくださったあなたの民の前から、国々を追い払うという大いなる恐るべきことを行って、名を得られるためでした。」

ダビデは、神が他の国々から民として贖いだそうと試みた民族は他にはないと言っています。これは、疑う余地のない事実です。それは確かな事実です。そのような民族は他にはありません。

そして、出エジプト19章で、神が彼らに律法と十戒を与える前に、彼らがシナイ山の頂に集まっているときに、神はイスラエルに約束を与えました。神はモーセに、彼らにこれを告げよと言われました。出エジプト 19:6 です。

「あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。」

神がそのような言葉を語られた民族は他にはありません。そして、ローマ 9:4、5 でパウロはイスラエル人とユダヤ人だけに当てはまる特徴のリストを上げています。その箇所で、イスラエルの同胞者について語っています。

「彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。父祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。」

それはまた、最も特徴的なものです。ユダヤ民族を通して、イスラエル心を通して、救い主メシヤであるイエス・キリストがこの世に来られたのです。ほかのいかなる民族を通してではありません。

また、黙示録 5:5 に注目すべき言葉があります。息が止まりそうなほど興奮する言葉です。ヨハネが天国にいたときの場面で、巻物が示され、それには7つの封印がされています。そして、誰もその巻き物を取って開くことができませんでした。啓示を受けたヨハネは、その封印された巻物の中に何があるか知りたかったので、泣き出しました。

「すると、長老のひとりが、私に言った。『泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。』」

巻物の詳細についてはお話しませんが、その称号だけをお話ししましょう。ユダ族の獅子とは誰ですか。イエスです。さて、これはイエスの死と復活の何年もあとのことです。そして、イエスはなおユダ族の獅子と呼ばれています。ユダヤ人とは、ユダから来た単語です。

ユダヤ民族とイエスを同一視することは一時的なものではありませんでした。それはイエスの地上での生涯と奉仕のわずかな期間だけではありませんでした。それは永遠です。イエスの復活と昇天の何年ものちに天において、イエスはなおユダ族の獅子と呼ばれています。イエスはユダヤ人であっただけではなく、今なおユダヤ人です。私にとってそれは息をのむことです。仰天することです。そして、そこに獅子がおり、イエスがユダヤ人であることを覚えておく必要があります。ある日、獅子は吠え、ユダ族の獅子が吠えるとき、ユダヤ民族の敵に災いを送ります。私はその時どんなことがあっても、イエスに敵対したいとは思いません。

そして、最後の一つ、ヨハネ 4:22 でイエスがサマリヤの女に語っている箇所、ユダヤ民族についても最も重要なことが語られています。

「救いはユダヤ人から出るので、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。」

救いはユダヤ人から出る。息をのむような言葉です。どこから救いは来るのですか。ユダヤ人からです。私は異邦人ですが、私の霊的相続全体、私が楽しんでいるあらゆる霊的祝福は、一つの民族、ユダヤ人からの負債です。ユダヤ人なくしては、族長たちもなく、預言者たちも、使徒たちも、聖書も、救い主も存在しません。いったい、その5つなしに私たちはどれほど救いを受けることができるでしょう。それを忘れてはなりません。私たちは、それに応じたふるまいをするべきです。イエス・キリストにあつて祝福されている私たちは、一人ひとりすべての霊的祝福を一つの民族、ユダヤ民族に負っているのです。歴史の恐ろしい事実、何世紀もの間、おそらく17世紀もの間、私たちがへりくだりユダヤ民族に負債を負っていることを認めることはあまりありませんでした。私はそれが真のクリスチャンと言いませんが、キリスト教会は基本的に、私たちの救いがもたらされた民族であるユダヤ民族に敵対し、迫害し、あざけてきました。それは異常です。その状況がどれほどひどいかを説明する言葉を私は見つけることができません。私たちには、私たちの救いのすべてに対する借りがあるのです。

私たちイギリス人は、自国の国旗を誇るように、誇る傾向があります。ご存知でしたか。イギリス人の中には、もはや帝国はなくなったことを忘れてる人もいられるかもしれません。私は、帝国主義者でした。本当です。私の知る限り、私の家族の男子全員が帝国主義者でした。イギリス軍の士官としてインドで仕えました。そして、私たちイギリス人はへりくだる必要があります。ユダヤ人に、「ごめんなさい。私たちはあなた方に感謝してきませんでした。公然とは反ユダヤ主義ではなかったけれども、この国に反ユダヤ主義の流れがありました。そして、この国の歴史の中で公然と反ユダヤ主義があった時代がありました。この国の町で、ヨーク、プリストルなど、ユダヤ民族に対する公の暴力的な迫害があり、多くの人が命を落としました。」と言う必要があります。私たちは、へりくだる必要があります。悔い改める必要があります。歴史の新たな視点をもって、実際に何が起こったのかを見る必要があります。

さて、ユダヤ民族についてのもう一つの独特性、実に独特な点をお話ししましょう。彼らの歴史全体はあらかじめ預言されていました。他のいかなる国にもそのようなことはありませんが、アブラハム以降のユダヤ民族の歴史全体は聖書ですでに預言されていました。イスラエルに関してなされた預言の成就の全部で16の段階を紹介しましょう。

それぞれにみことばを引用することができますが、時間の関係上省略します。最初の3つはすべてアブラハムに与えられました。1つ目、エジプトでの奴隷生活の預言です。2つ目、エジプトからの富をもっての解放で、アブラハムは彼らが多くての財産とともにエジプトを出ると告げられました。彼らは奴隷でしたが、一晩のうちに、24時間のうちに、エジプト人の富で豊かになりました。前もって預言された注目すべき事実です。3つ目、彼らのカナンの地の所有はアブラハムに預言されました。

では、申命記とその他の書物に進みます。4つ目、彼らは約束の地で偶像礼拝に戻ることがはっきりと預言され、確かに成就しました。5つ目、神はエルサレムに礼拝の中心を確立される。6つ目、イスラエルと呼ばれる北王国は

アッシリヤに捕囚される。7つ目、ユダと呼ばれる南王国はバビロンに捕囚される。8つ目、ソロモンによって建てられた最初の神殿の破壊は、詳細に預言された。9つ目、バビロンからのわずかな残りの者の帰還が預言された。10個目、イエスの時代に建てられた第二の神殿はイエスご自身が詳細に預言された。それは興味深いことです。現在、エルサレムに行くと、ユダヤ人ガイドは神殿の周りを案内し、自力で立っている石を示して、こう言うでしょう。「すべての石は崩されると預言された石です。ほかの石の上に立って残されている石は一つもありません。」ユダヤ人ガイドは、いくらかのクリスチャン説教者より、はるかに聖書を信じているのです。

11 個目、レビ記 26 章やそのほかの多くの箇所、不従順のゆえに、彼らが国々、異邦人の国々の中に散らされると預言されました。12 個目、彼らは異邦人の間で迫害と抑圧に耐える。それは確かに預言されました。13 個目、彼らはすべての国々から再び集められる。それは私たちの目の前で成就しており、私たちがそれを見ることは重要です。

ですから、預言の 13 個は成就しました。あと 3 つ残っており、それらは成就されなければなりません。14 個目、戦いでエルサレムに敵対してあらゆる国々が集まる。15 個目、神の民への超自然的なメシヤの啓示。16 個目、地上にその王国と確立するための栄光と力によるメシヤの再臨。

つまり、16の預言のうち13が成就しました。私はあまり数学が強い方ではありませんが、私の計算によると、約 81%の割合です。さて、私たちが残りの3つの預言が成就することを信じるなら、私たちは狂信者であるとは思いません。人々は私たちがまるで奇妙なことを信じているかのように、変な目で見ます。しかし、私は説教者になる前、論理学の専門家でした。そのような私にとって、一冊の本が確実な正確さで前もって 13 の出来事を預言できるなら、その本で与えられている他のすべての預言も、真剣に受け止められるべきだということは論理的です。

さて、誤ってパレスチナと呼ばれるイスラエルの地に対する神のご計画について、現代政治学で最も論争的である話題をお話したいと思います。イスラエルをパレスチナと呼ぶことは聖書的な真理にまったく反するということを指摘させてください。パレスチナとは、ペリシテ人の地という意味です。その言葉は、ローマが征服し、第一の神殿を破壊するまでまったく使われたことはありませんでした。そして人々は、ユダヤ人がそれに対して文句を言わなかったので、パレスチナという名を使ったのです。つまり、それは故意に選ばれた反ユダヤ的な言葉でした。私がパレスチナについて話し始めると、妻の髪の毛は逆立ちます。彼女は「それをパレスチナと絶対に言わないでください。」と言います。私は時にパレスチナのことを語らなければなりません。なぜなら、人々はあまりにも無知で、説明しないと何について言っているのかわからないからです。神は彼らの無知を赦してくださいませ。

とにかく、その地に対する神のご計画についてお話ししましょう。聖書的にそれはカナンの地と呼ばれましたが、新約聖書では何と呼ばれているかご存知ですか。イスラエルの地です。マタイの福音書の最初の 2 章で、2 度イスラエルの地と呼ばれています。それが、その地の聖書的な呼び名です。

さて、神がその地について何と言っているかを見てください。創世記 17:7、8 で、神はアブラハムに現われ、契約を結ばれました。それはまったく神からのものです。つまり、アブラハムは何もしなかったということです。ただ神が心に決め、アブラハムにこのように言いました。

「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」

イスラエルがその中にあるか、外にあるかにかかわらず、あなたが聖書を信じるなら、その地が誰の所有かについての論争はありません。それは違いを生じません。神はイスラエルに永遠の所有として与えられたからです。

そして、私が聖書の中で最も注目すべきだと信じる箇所が詩篇 105 篇にあります。7 節から始めましょう。これは、土地に対する神の御計画についての言葉で、その中に、私の知る他のどの聖書箇所以上に神の全き献身を表現していることばです。詩篇 105:7-10。

「この方こそ、われらの神、主。そのさばきは全地にわたる。

主は、ご自分の契約をとこしえに覚えておられる。お命じになったみことばは千代にも及ぶ。

その契約はアブラハムと結んだもの、イサクへの誓い。

主はヤコブのためにそれをおきてとして立て、イスラエルに対する永遠の契約とされた。」

これら4節は、聖書の他のどの箇所にもないほど、神がご自身の完全な約束を表わすために用いていることばです。別の箇所を聖書で見つけることはできません。言葉をリストアップしてみましょう。永遠の契約、お命じになった、みことば、誓い、おきて、契約。興味深いことに、神がそのような、まったく權威をもって全面的な契約をされたことを、脚注を参照して聖書のページをめくらなければなりません。そして、それが何であるかを見つけたとき、私は息をのみました。

「そのとき主は仰せられた。『わたしはあなたがたの相続地としてあなたに、カナンの地を与える。』」

それらすべての言葉、契約、お命じになった、みことば、近い、おきて、永遠の契約が、神がカナンの全地を与えることに適用されます。それに異議を唱える人は、神に敵対することになると思います。

そして、エレミヤ 30 章で、終わりの日に彼らの相続地へのユダヤ民族の帰還を預言している、数え切れない聖句の一つがあります。エレミヤ 30:3 からです。

「見よ。その日が来る。——主の御告げ——その日、わたしは、わたしの民イスラエルとユダの繁栄を元どおりにすると、主は言う。わたしは彼らをその先祖たちに与えた地に帰らせる。彼らはそれを所有する。」

ある程度聖書の知識がある人なら、神がアブラハムとその子孫に与えた地が何であるかを知っていると思います。カナンの地、イスラエルの地、その地と今日私たちが呼ぶのは、まったくもって聖地です。神は言われます。「時が来れば、私はイスラエルとユダの子孫を捕らわれの身からその先祖たちに与えた地に帰らせる。」

そして、神は警告を与えます。ある人が、私の友人のイギリス人牧師にこう聞いたことがありました。「あなたはユダヤ人の帰還が神のみわざだと思いませんか。」しかし、その牧師はこう言いました。「もし、それが神のみわざなら、そこには平和があるはずだ。」その牧師は聖書を知らなかったのです。

さて、これは神がその地へのユダヤ人の帰還について言っていることばです。(エレミヤ 30:5 以降)

「まことに主はこう仰せられる。『おののきの声を、われわれは聞いた。恐怖があつて平安はない。男が子を産めるか、さあ、尋ねてみよ。わたしが見るのに、なぜ、男がみな、産婦のように腰に手を当ているのか。なぜ、みな顔が青く変わっているのか。』

これは、ものすごい恐れ、抑圧、妨害の描写です。

「ああ。その日は大いなる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる。」

ですから、ユダヤ民族の帰還は、すぐに平和を生み出すものではありません。反対に、彼らがこれまで経験したことがないような苦難のクライマックスの時代です。しかし、その約束は、彼らはそこから救われるということです。それからではなく、その中からです。

そして、エレミヤ 30 章の最後の言葉を見ると、小さなまとめのようにこう言っています。

「終わりの日に、あなたがたはそれを悟ろう。」

これは、終わりの日にユダヤ民族が彼ら自身の地に回復されるという預言です。そして、預言は言っています。「平安はすぐには来ない。」逆に、対立がまさにヒートアップするでしょう。

さて、聖書の中で私にとって最も刺激的な箇所である、エゼキエル 36 章を開きたいと思います。ここは、ユダヤ民族の自分たちの土地への帰還の簡潔で段階的な描写です。エゼキエル 36:16 からです。

「次のような主のことばが私にあった。『人の子よ。イスラエルの家が、自分の土地に住んでいたとき、彼らはその行いとわざとによって、その地を汚した。その行いは、わたしにとっては、さわりのある女のように汚れていた。それでわたしは、彼らとその国に流した血のために、また偶像でこれを汚したことのために、わたしの憤りを彼らに注いだ。』

ですから、彼らの罪と偶像がその地になおある間は、神は人々にさばきをもたらしました。そして、神が取り扱った次の段階が次の節にあります。

「わたしは彼らを諸国の民の間に散らし、彼らを国々に追い散らし、彼らの行いとわざとに応じて彼らをさばいた。」

このように、次のさばきは、その地から追い散らすことでした。そして神は言います。「彼らは他の国々に行くとき、私の恥となる。」

「彼らは、その行く先の国々に行っても、わたしの聖なる名を汚した。人々は彼らについて、『この人々は主の民であるのに、主の国から出されたのだ』と言ったのだ。」

主は言われました。「私は、散らされていった地で人々のふるまいにより恥とされた。なぜなら、彼らは私の民であるような振る舞いをまったくしなかったからだ。」さて、次の節は、とても意義深いです。なぜなら、神の第一の動機を理解するまでは、神のイスラエルへの取り扱いを決して理解できないからです。22 節です。

「わたしは、イスラエルの家がその行った諸国の民の間で汚したわたしの聖なる名を惜しんだ。」

神はユダヤ民族のためにそれをなされたわけではありません。ご自身の御名のためです。もしあなたがそれを理解できないなら、あなたは続く歴史の出来事についていくことができません。神はご自身の御名の栄光のために介入されたのです。さて、神はこれが、私たちが彼らを取り扱う方法だと言いました。そして、非常に興味深いことに、それはとてもシンプルです。ユダヤ民族のその地と神への回復の段階的な描写です。あなたはこう言うかもしれません。「でも、神さま、どうしてそんな方法にしたのですか。彼らはまず悔い改め、それからその地に戻らせるべきだと思いますが。」神がその方法をとらないと言うことで、あなたは神と議論し合わなければならないでしょう。彼らはその地に戻り、悔い改めます。私は、多くのクリスチャンが、「ユダヤ民族が悔い改め、イエスをメシヤだと認めるなら、彼らの回復を信じることができますが…」と言うのを聞きました。そのような人は、神と徹底的に議論しなければなりません。なぜなら、神は、異なる方法にすると決められたからです。神は 22 節で言っています。

「それゆえ、イスラエルの家に言え。神である主はこう仰せられる。イスラエルの家よ。わたしが事を行うのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った諸国の民の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。わたしは、諸国の民の間で汚され、あなたがたが彼らの間で汚したわたしの偉大な名の聖なることを示す。わたしが彼らの目の前であなたがたのうちにわたしの聖なることを示すとき、諸国の民は、わたしが主であることを知ろう。——神である主の御告げ——」

「私は、私があなたに行なったことによって、私の名の栄光を取り戻す。」そして、神は、私たちの時代に確かに成就されるいくつかのシンプルなステップを続けています。次のステップは 24 節です。

「わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。」

誰の地ですか。あなたがた自身の地です。その地の中にいようがいまいが、それは常に彼らの地です。なぜなら、神が永遠の契約によって彼らに与えたからです。しかし、彼らは追い散らされました。しかし、神は言われます。「わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。」と。

私は、エルサレムのヘブライ大学に通っていました。30人ぐらいのクラスの中に少なくとも10か国から来た学生たちがいました。そして現在、ユダヤ人は100か国以上の国々に住んでいると推定されます。それは驚くべき奇跡です。私に言わせてみれば、それはおそらくエジプトから脱出した奇跡以上のものです。

私の前の妻は、デンマーク人です。彼女はよくこう言っていました。「あなたがデンマーク人を国々の中に散らして、200年後に戻ってきたら、どこにもデンマーク人を見つけることはできないでしょう。彼らはその国に同化しているでしょう。」しかし、ユダヤ民族は何年間散らされていますか。信じられません。2000年です。私は誇張してはいません。彼らはなお、定義可能な別の民族です。それは奇跡です。さらには、数多くの国々に数多くのユダヤ人たちということ自体が神の奇跡的な介入です。

私は、第二次世界大戦の末期にイスラエルにいました。そして、彼らがどこから集められ、何が起こったかというユダヤ人の証をいくつか聞きました。私は、自分の目で見たものは、出エジプト以上の偉大な奇跡を現わした全体のシナリオであったと言わなければなりません。そして、それは奇跡です。神が起こさない限り、起こり得ないことです。そして神は言われます。「私がそれをする。」私はもう一度それを読みたいと思います。エゼキエル 36:24-25。

「わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ…」

彼らはまだ汚れていることに注目してください。そのことはある人々の神学をひっくり返します。私にはどうすることもできません。それが現実です。あなたは、それを神と解決しなければなりません。神は言われます。「私がその地に彼らを連れ戻ったその時、彼らを取り扱う。聖い水をあなたの方の上に振りかけ、あなたはすべての汚れからきよめられる。」

ホセア書で、こう言っています。(ホセア1:10)「彼らは、『あなたがたはわたしの民ではない』と言われた所で、『あなたがたは生ける神の子らだ』と言われるようになる。」ですから、神は、彼らを回復させるために、彼らがもともと散らされたその地に連れ戻さなければなりません。それは、私にとって非常に論理的です。

そこで、主がまずなされることは、きよい水を降りかけることです。このきよい水とは、神のことばであると私は信じます。ユダヤ民族は、神のことばをただ降りかけられるだけで、浸されるものではありません。多くの点で、ユダヤ民族の歴史はカトリック教会の歴史のようであることを知る必要があります。もちろん、多くの違いもあります。しかし、基本的にカトリック教会において、司祭は聖書を知っている人、聖書を知っているはずの人でした。人々は自分で聖書を読みません。人々は司祭が語ることを信じるのです。そして、ある程度それはユダヤ民族にも言えることです。ラビは答えを知っていた人でした。彼らは聖書を自分たちで考える必要はありませんでした。ラビが教えることをするほかにありませんでした。しかし今、彼らはきよい水を降りかけられています。神のことばが彼らのところに来ています。これは、増え続けています。つまり、イエスをメシヤだと信じるユダヤ民族の会衆の数の増加が、驚くほど急速に成長しているのです。



私は、1948年にエルサレムにいたときのことですが、もし、一年に一人のユダヤ人信者に出会ったなら、それは興奮すべきことでした。今では、見まわすたびに、新しいユダヤ人の信者がいます。エルサレムにヘブル語を話す教会がいくつあるか忘れてしまいましたが、18ぐらいでしょうか。ヘブル語を話す18のユダヤ人の教会がエルサレムにある。それはこの数年間に起こったことです。神は、彼らにきよい水、神のことばという聖い水を降りかけておられます。次の節で神は言っています。

「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。」

その何世紀もの離散の間、ユダヤ民族は、神のさばきである石の心を持っていました。石の心は、聖霊に応答できません。彼らは応答することができませんでした。彼らは常に除外者でした。今、神は石の心を取り除き、肉の心を与えます。そして、最も興奮すべき変化は、イエシュア、イエスへの彼らの態度です。

1947年か1948年だったと思います。私は一人のユダヤ人と話していたとき、彼に言いました。「私は、イエスがメシヤだと信じています。」すると、彼は後ろを向いて地面につばを吐きました。それがイエスの御名に対する彼の反応でした。エルサレムのヘブライ大学の宗教の教授は、数年前にこのようなコメントをしました。「少し前は、私の学生は全員、神学的議論について知りたがっていました。今、彼らはみな、イエスについて知りたがっています。」このような変化、非常に重要な変化が起こっています。神は、それが来ると言われました。「私はあなたに新しい心、新しい霊をあなたに授け、あなたの肉から石の心を取り除き、肉の心を与える。」次の節です。

「わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。」

それから、神は言われました。「あなたに新しい霊を授けるだけではない。それは新しいいのち、私の霊をあなたに授ける。」私にとって、それは聖霊のバプテスマです。そして、神は言われます。「今、あなたは私の命令を守ることができる。」いったい、何人の人が聖霊なしでは神の命令を守ることができないと知っているのでしょうか。

1932年、イートン学校の学生だった時、私は堅信礼を受けました。堅信礼をご存知ですか。聖霊の力を受けるための儀式です。実は、私は受けたくなかったのです。人々は、私が堅信礼を受けなければならないかどうかを当時インドにいた私の父に訴えました。父は返事を書いて、「お前ぐらいの年の男の子はみな、堅信礼を受けるよ。お前もそうしなさい。」それで、私は受けました。堅信礼を受ける前、私は罪人で、受けた後は堅信礼を受けた罪人でした。控えめには言っていない、その通りだったのです。その約10年後、神は私を聖霊で満たし、初めて私は喜んで神に仕えることができました。それには葛藤がありませんでした。それがユダヤ民族に起ころうとしているものです。神は言われます。「わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。」このセクションの最後の節、28節です。

「あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。」

あなたは、最後まで見なければなりません。これらすべては段階ですが、クライマックスは、「あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。」です。そして神は、その場所に彼らを導く様々な主な段階を、とてもシンプルに描写しています。ですから、あなたがどちらかといえばユダヤ民族に批判的であったとしても、問題ではありません。実際、最もユダヤ民族に批判的な人たちはユダヤ人たちなのです。しかし、忍耐を忘れないでください。神は働いておられます。神が何かをされておられます。神は、彼らを取り扱う方法を何世紀も前にあらかじめ計画されました。神はそれを段階的になさっています。それは、私たちの目の前で成就されていていきます。少なくとも、私には興奮すべきことです。私がそうなら、ほとんどの方が興奮するでしょう。それは、真理であるだけでなく、かつても真実でありましたが、私は大変変わりました。

ヘブル語でこの箇所を読んでもみると、エゼキエル 36:23-30 の間で神は「私は～する。」と18回言われています。お分かりですか。私たちは、主権者なる神について学んでいます。私たちの賛成を必要とする神や、何をしようとしておられるのかわからない神について学んでいるではありません。神はすべてを綿密に計画し、18回、「私は～する。私は～する。」と言っておられます。あなたは神の主権を信じますか。神の主権に対する私の定義は、こうです。神はご自身の望むことをなされ、神の方法でなされ、神の時になされ、誰の認可も必要としない、です。もちろん、私の承諾も。ある人々は、神はそれをされる前に自分たちの承諾が必要だと考えますが、そうではありません。

さて、これらすべてはみなさんや私にとってとても重要な適用です。イザヤ11章を開くと、イスラエルの回復の意義は、他の国々のためあることを神は語っています。イザヤ 11:11、12 です。

「その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買い取られる。残っている者をアッシリヤ、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々から買い取られる。」

イザヤは、第二の集められるときがあると預言しています。これは、聖書についての注目すべき事実です。なぜなら、その時には、最初の集められるときはまだ来ていなかったからです。しかし、神はその先を見ておられるのです。最初の集められるときは、バビロン捕囚のあとの部分的な集まりでした。しかし、神は再び集められるときがあり、それは、バビロンに散らされたユダヤ人のわずかな地域からだけでなく、世界規模で起こると言われています。「主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買い取られる。」さて、神が何かをするために御手を伸ばすなら、神はそれをなさいます。主の道を妨げる人には災難。これは、私にとって鮮明な描写です。どのような意味があるのでしょうか。

「主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。」

注目してください、これは、世界規模に集められるのです。バビロンから集められたのは部分的で、特定の地域に限られていました。これは、世界規模です。そして、それはまさに成就されました。ユダヤ民族が100か国以上から集められました。あなたは、ユダヤ民族が集められなかった地域を見つけることはできません。しかし、それは、最初の離散と、最初に集められる前にすべて預言されていました。

そして、神がこう言われたことは私にとってとても鮮明になりました。「主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集められる。」その国々とは、異邦の国々です。ですから、イスラエルが彼らの地へ再び集められることは、国々への神の旗です。よく心に留めておきましょう。

では、旗とは何ですか。これは私の簡潔な定義です。旗は、通常、横断幕のようなもので、遠くからでも見えるようにし、たいいてい簡単な言葉が書かれています。私は、ユダヤ民族が集められるというのをそのように理解しています。神の横断幕があらゆる国々に見えるように掲げられるのです。新聞を開くと、一週間一つもイスラエルについてのニュースがないことはありません。すべての国々が見るのです。ウェールズ州より小さな細長い土地に600万人以下の国であることを考えると、驚くべきことです。そして、それは毎週、毎週ニュースになります。なぜでしょうか。神がすべての国々に見てほしい横断幕だからです。それは掲げられています。

その横断幕には何が書かれているのでしょうか。これは、私の個人的な解釈にすぎませんが、神がその旗を通して言われることはこうです。「神はご自身の契約を守られる。」何年前でしたか。およそ3800年、神はアブラハムと契約を結ばれました。神は言われました。「私はこの地をあなたとあなたの子孫に与える。」ほとんどの人は忘れてしまっています。ほとんどのイスラエル人は忘れてしまっています。人々は、それは過去に埋もれたと思ったのです。決して忘れなかった人が一人います。神です。神は言われました。「私は、私の契約を忘れない。」それが私たちみなのためであることを知ることは重要です。神はご自身の契約を守られます。それはクリスチャンである私たちにとって、非常に重要です。私たちの神との関係は、イエスの血潮によってなされたその契約に基づいているからです。もし、神がイスラエルとの契約を破ることができるなら、なぜ、神は教会との契約を破ってはいけなんでしょうか。しかし、神はそうしません。神は契約を破る方ではありません。神は契約をされ、それを守られます。そして、それは良き知らせです。興奮すべきことです。

私がエルサレムにいたとき、1947年11月29日に、国連がその小さな細長い国を分割する決議をし、イスラエルにわずかの地を与えました。そして、エルサレムの中心で、ユダヤ人の男女の若者たちが腕を組んで輪になり、シオン広場でほぼ一晩中民族ダンスを踊りました。彼らはなぜ、そんなに興奮していたのでしょうか。なぜなら、神がご自身の契約を守られていたからです。神は何と素晴らしいお方でしょう。

さて、これは国々のための重要なメッセージを持っています。実際、イギリスはこのことについて特別な役割を果たしたので、いろんな形でまず何よりもイギリスのためのメッセージですが、それだけではありません。ヨエル 3:1、2 を開きましょう。

「見よ。わたしがユダとエルサレムの繁栄を元どおりにする、その日、その時、わたしはすべての国民を集め、彼らをヨシャパテの谷に連れ下り、その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。」

イスラエルの地である前は、それは神の土地でした。神はそれをイスラエルに与えたのです。土地を分け取るとは、現代政治的用語では、分割です。神はご自身の土地を分割する国々をさばかれます。そのリストのトップがイギリスです。

第一次世界大戦後に、国際連盟がその聖地を管理するためにイギリスを任命しました。そして、彼らの特定の任務は、ユダヤ民族のための国家を作り出すことでした。それは1919年ごろのことです。1922年、内務大臣であったチャーチルのサイン一つで、現在のヨルダンに当たる、トランスヨルダンと呼ばれたアラブの国が創られ、それはイスラエルに割り当てられた総面積の約 75%が割り当てられたのです。そして、そのヨルダンの地にはユダヤ人が住むことは許されませんでした。ところが、イスラエルに割り当てられた地にはアラブ人はまったく自由に住むことができたのです。ですから、ユダヤ民族には、割り当てられるはずだった土地の 25%に終わってしまったのです。

そして、第二次世界大戦後、国連が分割を議決し、さらに12%をイスラエルに与えました。100%ではなく、12%に終わってしまいました。その責任は誰にあったでしょう。イギリスです。その後、みなさんご存知のように、国連はイスラエルに彼らの国家を与えることを決議しました。私は証人の一人です。私は、当時エルサレムに住んでいたのです。私はイギリス人です。私はイギリスの退役軍人でしたので、ある程度確実な情報を得ることができていました。イギリスは国連に公然には反対しませんでした。自分たちの方法で決めたのです。彼らはイスラエル国家の設立に表立って対立することは何もませんでした。

私はその場にいたので、話しているのです。自分の目でそれを見ました。そして、彼らはユダヤ人が自分たちの国家を持つという考えをあざ笑いました。「このユダヤ人たちは農業のやり方を何も知らない。彼らが知っているのは、金もうけだけだ。」そんな風に言っていました。ユダヤ民族と妻と私は、そのとんでもない危険な時の渦中にいたのです。私たちはエルサレムの中心に住んでいました。事態はどうなったでしょうか。これは非常に重要です。第一に、イスラエル国家が誕生しました。第二、大英帝国はバラバラになりました。なぜ、崩壊したかと言うと、彼らは神のイスラエルへの目的に反したからです。神のイスラエルに対する目的に反するすべての国の政府への災いです。

私たちは学んできていますよね。私たち英国人は一つの国民として、神の前にへりくだり、罪としてそれを認める必要があると思います。「私たちは、あなたの目的を退けました。あなたの民をさげすみました。」と。当時、ユダヤ民族についてなされたあらゆる反ユダヤ的あざけりがありました。しかし、いかなる国も、いかに強力でも、いかに裕福でも、神の目的に敵対して繁栄することはできません。そして、ほぼ同様のことがアメリカにも起きているのを見ています。同じ種類の政治的言語を見ることができます。言うことは素晴らしいですが、同時にそれを取り除きます。そして、私は個人的に、イスラエルに関して神の目的に誤った扱いをするアメリカの大統領は崩れ去ると思います。イスラエルの友のように語り、親切で、政治的にあらゆる正しいことを言いますが、内心、彼らが考えていることは一言でいうと何だと思いませんか。石油です。それが、関心事であり、すごい力の動機です。それが、EUを動機づけているものです。石油です。イスラエルには、明確に提供する石油はありません。ですから、親切なことを言います。政治的に正しいことを語ります。民主主義的な言葉を使いますが、同時に、私たちのかばんを気かけます。そんな感じでした。

さて、非常に危機的であるこの状況において、一つの最終的な事実、それらすべての背後にある本当の問題です。つまり、それはばかげています。国連の決議のおよそ半分はイスラエルについてのことです。あなたは、それ以上にばかげたことを想像できないでしょう。何か理由があるはずですが、なぜ、新聞やテレビを見るたびに、この600万人ほどが住む小さな領土についてのことがニュースとなっているのでしょうか。世界の中では雀の涙ほどのものです。その抑圧、反対、対立の理由は何でしょうか。あなたに伝えたいと思います。

マタイ 23 章の最後の言葉はとても悲しいものです。37-39 節です。これは、イエスのエルサレムへの別れのことばです。とても悲しく、悲劇的な別れです。

「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。」

イエスが、あなたがたの家と言うとき、その意味は宮です。彼らはそれを家と呼んでいたからです。そして、それは真実です。一世代の間にそれは完全に荒れ果ててしまいました。そして、イエスは続けます。

「あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」

ここでは、あなたがたと言っており、複数形です。エルサレムのことではありません。あなたがたとは、ユダヤ民族です。「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」とあなたがたユダヤ民族が言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません、です。

ですから、イエスは、「私は、あなた方が私を歓迎する準備ができるまで、戻ってこない」と言われたのです。イエスは、ご自身が再臨される前にユダヤ民族の心が整えられるようにされます。ゼカリヤ 12 章を開くと、この絵の最後の一片が見出せます。ゼカリヤ 12:10 です。ゼカリヤ 12、13、14 章はすべて、この時代の終わりのイスラエルの地の状況を取り扱っています。主はこのように語っています。

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。」

これを語っておられる主は、言われます。「彼らは、自分たち、ユダヤ民族が突き刺した者、私を仰ぎ見……」彼らが主を十字架につけるという、聖書の中で最も明確な記述なので、彼らが、それが何を意味するか分からず読むことができるのは、最も驚くべきことです。「彼らは、自分たちが突き刺した者、私を仰ぎ見る」のです。

そして、「ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。」と言っています。ですから、イエスが誰であるのかについての啓示が聖霊によって、ご自身の民であるユダヤ民族になされます。そして、イスラエルの歴史上経験したことのないほどの嘆きが起こります。彼らは初めて、「私たちは自分たちのメシヤを十字架につけた。私たちは神を拒絶した。」と気づくのです。続きがあります。

「その日、エルサレムでの嘆きは、メギドの平地のハダデ・リモンのための嘆きのように大きいであろう。この地はあの氏族もこの氏族もひとり嘆く。ダビデの家の氏族はひとり嘆き……」

マタイの福音書とゼカリヤ書をまとめてみて、主が再臨される前に特定のものが確立されなければならないかどうかを見ていただきたいと思います。ユダヤ民族はエルサレムとその地に再建されなければなりません。なぜなら、主イエスは、彼らがそうなるまでは再臨されないからです。そして、人々の心がイエスご自身に立ち返るイエスの超自然的な啓示がなければなりません。

さて、あなたは、この時代の神々、サタンが最も恐れているものは何だと思いますか。サタンが最も動揺することは何でしょうか。私は、イエスの再臨だと言いましょ。なぜなら、イエスの再臨まで、彼は多くの戦いに敗れるかもしれませんが、戦争には決して負けないからです。サタンは多くのたましいを失うかもしれませんが、なおもこの時代の神であり続けるからです。それは、イエスが実際に戻って来られるまで変わることはありません。ですから、サタンが最も恐れるのは？ イエスの再臨です。サタンが最も反対していることは何ですか。イエスの再臨の道を備える状況が整えられることです。イエスの再臨の前に、ユダヤ民族が自分たちの町としてエルサレムにおり、その地を占領しなければなりません。ですから、これがすべての騒動の背後にあるものです。サタンは主を再臨させるシナリオの準備を妨げることができる限りのことを、何でもしています。そして、神はすべての国々を集められ、イスラエルの地のための神の要求にどのように応答したかに基づいて国々をさばかれるので、すべての国々が関わるのです。驚くべきことです。それはまた震え上がることでもあります。

私は、この国、イギリスが、間違っ側立たないようにと祈ります。私はそれを保証することはできませんが、そのために祈ります。イギリス人が、イギリス人クリスチャンの方法で、イスラエルを国家として再建のために道を開いたので、それは悲劇的です。あなたはそれに気づいていないかもしれませんが、19世紀末に、彼らの土地へのユダヤ民族の回復のために祈り、世論をかき立て、働いた、非常に影響的なイギリスのクリスチャンたちの小さなグループがありました。最初のシオニストは、ユダヤ人ではありませんでした。彼らはイギリス人で、当時神はイギリスを祝福していました。実際、イギリスは偉大でした。今日、イギリスを偉大だとはあまり言えないでしょう。しかし、イギリスにユダヤ民族を愛する女王がいたとき… 献身したクリスチャンであった一人の首相と、ユダヤ人の背景を持ったもう一人は、勝ち組にいました。あなたの神との関係が、まさに、あなたが成功するか否かを決定づけるのがわかるでしょう。

妻と私は、エルサレムで 1840 年に建てられた、中東で最初のプロテスタント教会で礼拝していました。それは、イギリス人のシオニストの努力と与えること、そして祈りから生まれた教会です。そして、その目的は、ユダヤ民族が戻って来た時のために、あかしの場を備えるためでした。ですから、ユダヤ民族が戻って来て、「私はあかしを必要としている。」という洞察力を持っていることを彼らはみことばから知っていました。そして、この特定の教会は普通の教会のように建てられたものではありません。あなたが入って行った瞬間に、ほとんどの普通の教会はユダヤ民族を不快にさせます。しかし、この教会は本当のクリスチャンであるにもかかわらず、ユダヤ人たちが心地よいと感じることができるように考えられています。そして、教会が最初に建てられたときの最初の聖職者は以前ラビでした。そして、ユダヤ人たちの間にリバイバルがありました。その後、サタンが入り込み、ユダヤ人よりもアラブ人に関心を持つようになりました。神はアラブ人を祝福されます。すべてのアラブ人は救われる必要のあるたましいを持っています。しかし、ユダヤ人が歴史のカギなのです。

全能の神に私たちの罪を告白することによって、このメッセージを締めくくるのがふさわしいと私は思います。神の目

的の道を私たちは妨げてきました。私たちは、神の民を過小評価し、中傷してきました。私たちが、神に対して、そしてユダヤ人に対して、イスラエルの国に対して、罪を犯したことを主に促され、正直な告白をし、神に謝罪し、神に赦していただきましょう。アーメン。